



**ON**<sup>New</sup>  
KITAKYUSHU City  
High school

令和6年度普通科改造計画**始動**

**誕**

未来共創科

情報ビジネス科

生、シン・イチリツ

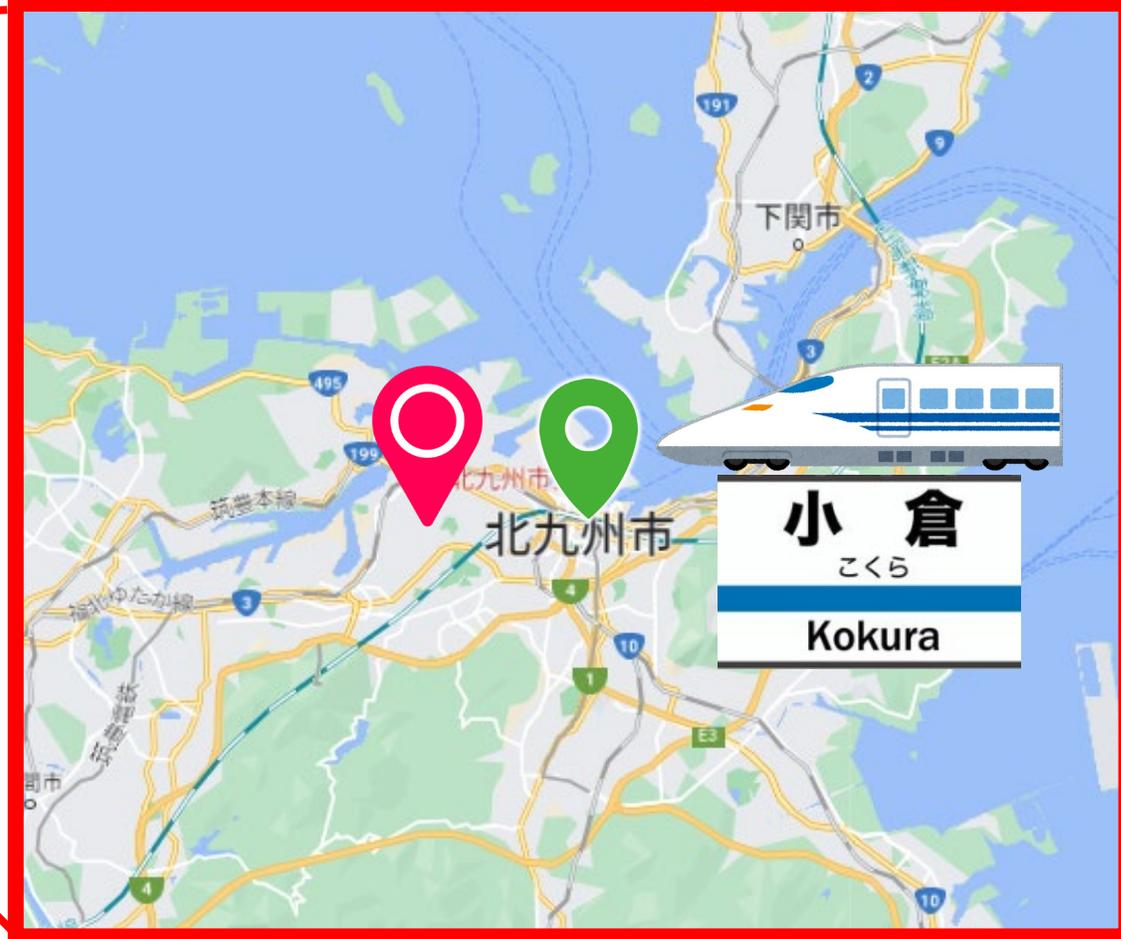
- ① 学校の概要について
- ② スクール・ポリシーについて
- ③ カリキュラムの概要について
- ④ カリキュラム開発の成果と課題について
- ⑤ 北九州市高等学校のこれから

## 福岡県の上部に位置



九州の最北端  
北九州市

## 新幹線「小倉駅」に近い立地



## 【特徴や強み】

- 北九州市（政令市）**唯一の高等学校**  
⇒**行政・教育委員会**とのつながり  
⇒**市立小・中学校**とのつながり
- **民間人校長**を採用（R5年度～）
- **中学校から異動した教員**が多数在籍
- 北九州市立**大学准教授**がCN
- 北九州市立**大学生インターン**在籍
- **部活動**が盛ん

- 1963年 北九州市戸畑高等学校として創立
- 1969年 「貿易科」創設
- 1973年 「情報処理科」創設
- 1988年 「貿易科」から「国際経済科」に改編
- 1996年 「商業科専門進学コース」新設
- 2007年 「北九州市立高等学校」と改称
  - 「普通科」2クラス
  - 「情報ビジネス科」4クラス
- 2019年 「普通科」2クラス
  - 「情報ビジネス科」3クラス
- 2024年 「普通科」から新学科「未来共創科」に改編
  - 「未来共創科」3クラス
  - 「情報ビジネス科」2クラス

## ＜学校経営の柱＞

他のどの高校よりも圧倒的に  
「多様な学びの機会」を提供する。

他のどの高校よりも圧倒的に  
「個々に対応した成長のサポート」を提供する。

### グラデュエーション・ポリシー（GP）

「このような力を育成します。」

#### ＜未来共創科・情報ビジネス科共通＞

- 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組むことができる力
- 疑問を持ち、考え抜くことができる力
- 多様な人々とともに、目標に向けて協力できる力
- 社会の変化にしなやかに対応できる力

#### ＜未来共創科＞

- 課題解決に向けて、多様な人々を巻き込み  
実行力のあるチームを形成する力

#### ＜情報ビジネス科＞

- ビジネスの視点で課題解決に取り組むことができる力

## ② スクール・ポリシー（案）について



### カリキュラム・ポリシー（CP） 「このような学びを展開します。」

#### ＜未来共創科・情報ビジネス科共通＞

- 産・官・学・民などの多様な人々と共に探究的な学びの充実を図ります。
- ICTを様々な場面で活用した学びの充実を図ります。
- 各教科・科目において、課題解決型の学びの充実を図ります。
- 社会の変化に対応し、活躍している人との交流を図ります。
- 地域の活性化に向けて、異学年・異学科でチームを構成し、チームで探究するプロジェクト型の実践的な学びの充実を図ります。

#### ＜未来共創科＞

- 多様な人々と関わりながらチームを形成し、  
課題解決を図る学びの充実を図ります。

#### ＜情報ビジネス科＞

- 地域活性化に向けて、ビジネスの視点で捉え、チームで探究するプロジェクト型の実践的な学びの充実を図ります。

## ② スクール・ポリシー（案）について

### アドミッション・ポリシー（AP）

「このような生徒を受け入れます（求めます）。」

#### <未来共創科・情報ビジネス科共通>

- 何事にも粘り強く取り組みたい生徒
- 現状に満足せず、向上したいと願う生徒
- 他者と協力し、課題解決に取り組みたい生徒
- 探究に深く取り組みたい生徒

#### <未来共創科>

- 多様な人々を巻き込みチームを形成し、  
チームリーダーとして課題解決に取り組みたいと願う生徒

#### <情報ビジネス科>

- 商業教育をとおして、地域活性化に取り組みたい生徒

# ② スクール・ポリシー（案）について



質問：「これからどのような「学び」や「力」が必要になると思いますか？」

	①中学生	②保護者	③高校生	④大学等	⑤企業等
1	コミュニケーション力・協調性	コミュニケーション力・協調性	コミュニケーション力・協調性	コミュニケーション力	コミュニケーション力
2	基礎・基本の学力 (18.9%)	まとめ・発信力	基礎・基本の学力 (13.0%)	課題発見・解決	課題発見・解決
3	情報処理・活用	情報処理・活用	情報処理・活用	まとめ・発信力	まとめ・発信力
4	問題発見・解決	問題発見・解決	問題発見・解決	論理的思考	基礎・基本の学力
5	まとめ・発信力	基礎・基本の学力	まとめ・発信力	基礎・基本の学力	協調性・社交性
	(1641人)	(589人)	(359人)	(20校)	(133社)

# ③ カリキュラムの概要について



しなやかな人材を育成

### 対話する力

～みんなの答えを出すために～

社会では自分の出した答えに共感・納得が得られることが必要です。自分の答えをさらにブラッシュアップするための対話する力を育成します。

### 共創する力

～予測困難な社会で  
生き抜くために～

「発見する力」「まとめる力」「対話する力」を繰り返しながら、さまざまな経験を通して育成します。その結果、VUCA時代において進学先、就職先や地域社会などで他者と共に答えを見出すことのできる「共創する力」を育成します。

共創する力

### 発見する力

～やらされた学習にならないために～

主体的な学びにするためには、自ら設定した課題が必要です。「これが課題だ！」と気づく力を育成します。

探究学習  
(科を超えた学び)

未来共創科  
の学び

情報ビジネス科  
の学び

### まとめる力

～自分なりの答えを出すために～

課題の解決のためには情報収集、整理・分析、まとめ、表現することが必要です。「これが答えだ」という自分の考えを発信する力を育成します。

# ③ カリキュラムの概要について



NO	月	テーマ	内容	備考	運営R	プロジェクトR	職員	
		◆ボランティア活動場所探索	○活動場所を発掘する				◇職員が活動場所を探す (SDGsステーション、市民センターなど)	
1	4	◆未来共創Labキックオフ	○目的を知る (市立大廣川准教授に依頼) ○今後のスケジュールを知る				◇准教授と事前の打ち合わせ	
2	4	◆ボランティア活動について	○ボランティア活動の概要を知る ○ボランティア活動の目的・場所・内容・チーム編成	・ボランティア箇所 13か所×2チーム (各チーム8名) ・活動場所は廣川CN、福泉さん、SDGsステーション	◇運営Rとなりそうな生徒に目星をつける		◇第10回の講演会の依頼を行う。(廣川CNIに相談)	
3	5	◆社会人マナー・チームビルディング講習	○外部との連携に必要な社会人マナーの講習 ○チームビルディングワークショップ					
4	5	◆ボランティア活動の準備	○名刺の作成・自己紹介内容の確認・名刺交換の練習 ○ボランティア先の確認 ○活動先の課題を事前に予想 (例は右を参照) <予想の目的> 予想することにより、課題への意図やボランティア活動の見の視点を広げる。					
5	5	◆ボランティア活動①・振り返り	○ボランティア活動を実施 (地域を知る、課題を発見) ○振り返りや発表のための写真をとっておく。					
6	5		○振り返り (気づいたこと、感じたこと) → 課題につなげる					
7	6	◆ボランティア活動のまとめ	○グループで振り返りをまとめる。(パワーポイント) ・活動を通して気づいたこと、課題に感じたこと					
8	6	◆ボランティア活動のまとめの共有	○2・3グループでワークショップ形式で交流を行う ○他チームとの共有や違いに着目して学ぶ。					
9	6	★運営リーダーの決定	○運営リーダーの決定 ○運営リーダーの決意発表					
10	6	【しなやかな人材の育成プロジェクト】新時代に求められる「探究力」の育成						
11	7	◆ボランティア活動②に向けた活動①取組の改善の検討 ◆お礼状の作成	○活動②に向けた、地域の特徴や課題の捉え方、入れ先とのコミュニケーションの取り方などの改善 ○お礼状を作成・送付する。					
12	7	◆市立大地域創生学群学生によるプロジェクトや活動の紹介	○市立大地域創生学群等の学生によるプロジェクトや活動の紹介					
13	9	◆ミニ探究の取組① ・テーマを決める	○目的は、探究の型を知ること、チームメイトと相談 ○チーム内にテーマは3つ程度					

○総合的な探究の時間（1単位）及び新しく設定する学校設定教科（2単位）の計3単位で新しい学び「イチリツ・プロジェクト」を実施

○異学年で課題解決するプロジェクトチームを結成（各学年8名×3学年の24名で1チームを構成）

○未来共創科だけでなく、情報ビジネス科の生徒もチームに含め、より多様な生徒の集まりができるように構成

# ③ カリキュラムの概要について



KITAKYUSHU CITY HIGH SCHOOL

NO	月	テーマ	内容	備考	運営R	プロジェクトR	職員	
15	9	◆ミニ探究の取組③ ・情報をまとめる	○各自で進める。常に他者と相談しながら進める。	↓		↓		
16	9	◆ミニ探究の取組④ ・取り組んだことを発表する	○チーム外のメンバーと3, 4名くみ発表し合い、振り返りを行う。 ○振り返りは、よい点、改善点について振り返り、改善する。	↓		↓		
17	10	◆ミニ探究の取組⑤ ・改善したものを発表する	○他者からの改善点をもとに、改善したものを発表し、振り返る。					
18	10	◆ボランティアポイント	○ボランティアを受け入れ先を自分たちで探す。					
19	10	◆ボランティア計画	○ボランティアの計画を立てて、先方に連絡する。 ○先方に計画を伝え、確認する。					
20	10	◆目的・計画の再確認・最終調整	○ボランティア前の準備や先方との調整を行う。					
21	11	ボランティア活動② ※自分たちでボランティアを見つけ行動	○ボランティア活動を実施(地域を知る、課題を ○振り返りや発表のための写真をとっておく。					
22	11	◆ボランティア活動のまとめ	○グループで振り返りをまとめる。(パワーポイント ・活動を通して気づいたこと、課題に感じたこと					
23	11	◆ボランティア活動のまとめの共有	○2・3グループでワークショップ形式で交流を ○他チームとの共有や違いに着目して学ぶ。					
24	11	【しなやかな人材の育成プロジェクト】新時代に求められる						
25	12	◆活動②で発見した課題をもとにマイプロジェクトを検討する。	○各自プロジェクトを検討し、各チームで2つか絞り、まとめる。					
26	12	◆各チームのプロジェクトを発表し、取り組みたいプロジェクトを選択する。	○プロジェクトに参加したいものを複数選ぶ。					
27	12	◆プロジェクトチームを発表し、チームRを決定する。	○チームで集まり、プロジェクトの今後について ○運営Rは、プロジェクトRにはなれない。					
28	1	◆プロジェクトの計画を立てる	○目標設定を行い、それに向けた計画を立てる					
29	1	◆プロジェクトに取り組み・振り返る①						
30	1	◆プロジェクトに取り組み・振り返る②						
31	2	◆プロジェクトに取り組み・振り返る③						
32	2	◆プロジェクトに取り組み・振り返る④						
33	2	◆プロジェクトをまとめ・振り返る						
34	2	◆プロジェクトを発表する。						
35	3	【しなやかな人材の育成プロジェクト】新時代に求められる						
36	3							
36	3							

○学びを生徒主体で運営できるように、  
**学びの運営リーダーを設定**

○プロジェクトを生徒が主体的に  
運営できるように**プロジェクトリーダーを設定**

○学びやプロジェクトの企画・運営について  
**北九州市立大学の地域創生学群学生による支援**

### ③ カリキュラム開発の成果と課題



## <カリキュラム作成するにあたっての良かった点>

- **CN研修参加者や企業の方、大学教授、コンソーシアム構成員**など、学校外の方と多くつながることで、カリキュラムに**大学や企業等と連携した学びの開発**につなげることができた。
- カリキュラム開発に以下の**強力な仲間**が加わったことにより、カリキュラム開発をきめ細やかな視点で作成に当たることができた。  
**(学びを支援する教員の視点、学びを実践する生徒の視点)**

北九州市立大学 地域創生学群 廣川准教授 (本校カリキュラムCN)

北九州市立大学 地域創生学群 学生 (本校のインターン生 週3日)

年齢や専門性・考え方の異なる多様な人との関わりが、  
本校の新たな学びを作る上で、とても有用と感じている。

## <カリキュラム作成するにあたっての課題（⇒対策）>

- 試行実施することができる**授業時数を確保**することが困難  
⇒各教科や教育課程外の授業にて試行実施を行い、  
極力カリキュラムの改善につなげられるよう取り組む必要がある。
- 試行実施する際に、その**授業場面を全体で共有**することが困難  
⇒動画や写真や生徒の振り返りなどを活用
- 大学や企業等と**連携する際の日程調整**が困難  
⇒校内の時間割で柔軟に対応できるよう工夫が必要
- 年齢や専門性・考え方の異なる多様な人と  
出会う機会や時間を確保することが困難  
⇒カリキュラム開発担当者だけでなく、多くの職員で取り組む

他のどの高校よりも圧倒的に「多様な学びの機会」を提供する。

このことを実現させるためには、  
新しい学びのカリキュラム開発だけでなく、  
**各教科の授業のアップデート**がとても重要！

- コンソーシアムでの職員も含めたワークショップ型の意見交換
- アクティブな学びの実現に向けたワークショップ型職員研修
- 市高タイム（教育課程外の生徒が講座を選択できる授業）を活用した「探究的な学び」の実践

などなど、改善を進めているが、

各教科の授業のアップデートに向けて

常に未来をイメージして改善すること

より速いスピードで改善し続けること

が必要

⑤ 北九州市高等学校のこれから



各教科の授業のアップデートに向けて

常に未来をイメージして改善するためには、

企業や地域、大学、行政、また、国内だけでなく、  
国外も含め、社会の、

より多様な人々と未来に目を向け、

当然生徒も含め

「一緒に学びを作る」ことが必要。

各教科の授業のアップデートに向けて

より**速いスピード**で改善していくためには、

世の中が変化する速度が加速度的に速くなっている中、  
細かな改善を続けることも大切ではあるが、

**目の前の生徒は、数年後には**

**新たに変化した社会で生きること考えると、**

**思い切った学びにチャレンジ**

する必要がある。

多様な人々と未来に目を向け  
「一緒に学びを作る」

思い切った学びにチャレンジ

それが実現できる学校へ



**ONew**  
KITAKYUSHU City  
High school